

沖縄と向き合う子どもたち

千葉市立高浜第一小学校 三橋 昌平

1. 実施学年及び教科・領域

小学校第5学年 総合的な学習の時間

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 沖縄と向き合う子どもたち

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

本学習内容は指導要領の指導計画の作成にあたっての配慮事項(2)「地域や学校、児童の実態等に応じて教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な学習、児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこと。」また内容の取扱いについての配慮事項(6)にある「学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会境域施設安赤い教育関係談たち等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。」に関連させて学習を進め、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を育成していくことをねらう。

②単元の目標

- ・自分たちの生活と沖縄との違いから問いを見出し、主体的・協働的に課題の解決に取り組み、さらに課題に取り組みもうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・自分たちの生活や沖縄との違いから問いを見出し、課題を立て、必要な情報から、整理して考えている。(思考・判断)
- ・自分たちの生活や文化と沖縄との違いから見出した問いに対して、必要な情報を集め、まとめている。(技能・表現)
- ・沖縄に関して地理条件や風土、文化、歴史について理解を深めるとともに、探求することの良さを理解している。(知識・理解)

(3) 博物館との関連

①活用方法 来館型活用

②活用資料 第4展示室

- ・電動回転式ピラミッド型シーサー ・現代の観光とお土産
- ・沖縄の自然と観光 ・祭りのコーナー

(4) 指導観

4月に4年生(単学級)の担任になり、1年間を通してテーマをもって取り組むことができないかと考えた。運動会や音楽発表会といった行事や総合的な学習の時間、図画工作など教科の枠を越えて取り組みたいと考えたときに、沖縄の魅力を生かせると思った。以前にも沖縄と昆布を題材として5・6年生の社会科に取り組んだことがあったが、子どもたちと沖縄は相性がとてもよく、生き生きとした取り組みが見られた。

今回は4年生で、体を動かしたり歌ったりする活動と沖縄を結びつけていくと、沖縄に対する子どもたちの向き合い方が変わってくるのではないかと感じ、取り組むことにした。1年間取り組むにあたって、問題となるのは意欲が持続するかということである。様々な場面で沖縄のことに触れ、子どもたちの意欲が高まり、持続するように工夫をした。以下の実践報告で詳しくしていきたい。

3. 指導計画（44時間扱い・内総合的な学習の時間 21時間）

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	(7) 2 (3)	○エイサーをおどる。(体育) ○エイサーのおどりを楽しみ、はやし言葉やエイサーの由来を知る。 ○はやし言葉について知る。 ○はやし言葉の意味を調べ、沖縄言葉について疑問や知りたいことをあげる。 ○締め太鼓をつくる(図画工作)	□楽しく踊れるよう雰囲気をつくる。 □はやし言葉の意味を調べるなかで言葉に深入りするのではなく、「方言」程度にとどめておく。 ■感想に疑問や知りたいことをまとめている。 <ワークシート、知> □運動会で使うことで沖縄の学習への意欲化を図る。
展開1	(10) 2 (3) 5	○「さとうきび畑」「島唄」の合唱・合奏の練習をする。(音楽) ○歌詞の意味を調べ、歌詞から感じとった沖縄のイメージを感想に書く。 ○粘土でシーサーづくりをする。(図画工作) ○興味のあることについて調べ学習をする。 ○沖縄の歌や楽器、歴史、食べ物などについてグループで本やインターネットで調べる。	□戦争が想起されることが想定されるが、歌詞から想像できることを大事にし、合唱・合奏に取り組めるようにする。 ■感想に沖縄に対するイメージや自分の考えを書いている。 <ワークシート、思> □意欲が持続するよう楽しく取り組めるようにする。 □設定したテーマから外れないよう調べ方についてアドバイスを する。 ■自分たちのテーマについて調べたことからわかったことやまだわからないこと、もっと知りたいことなどについてまとめてい

	5 2 2	<p>○調べたことをまとめ、発表の練習をする。</p> <p>○模造紙に壁新聞としてまとめる他に、テーマにあった方法での発表の準備をする。(歌、楽器の演奏、踊りの紹介、動画を使った沖縄言葉でのももたろうなど)</p> <p>○発表会をする。</p> <p>○発表を見合い、自分たちの発表と関連させて沖縄についての考えを書く。</p> <p>○沖縄について関心のあることにかるたにする。</p>	<p>る。 <ワークシート、思></p> <p>□模造紙は簡単にまとめ、わかりやすくなるよう助言する。テーマごとの発表ではその性質に合ったものが選べるようアドバイスをする。</p> <p>■テーマに合った発表方法で練習を進めている。</p> <p><行動観察、技></p> <p>■他のグループの発表と自分たちの発表を関連させて沖縄について自分なりの考えをまとめている。 <ワークシート、思></p> <p>■関心のあることにかるたにまとめている。</p> <p><かるた、関></p>
展開 2	2 課外	<p>○「へいわってすてきだね」を読み、感想を書く。</p> <p>○絵本から感じた戦争や平和について自分の考えをワークシートに書く。</p> <p>○国立歴史民俗博物館を見学する。(希望者)</p> <p>○沖縄に関連する展示物をこれまでの学習を関連させて見学し、考えを書く。</p>	<p>□戦争や平和について考えるために、現在の沖縄について自分がどう考えるか書くように促す。</p> <p>■戦争や平和について沖縄を通して自分の考えを書いている。</p> <p><ワークシート、思></p> <p>□博物館見学では見学でわかったことや考えたこと、疑問に思ったことをメモに取るようにさせる。</p>
まとめ	1	<p>○これまで学習してきたことから沖縄について考えたことを文章にまとめる。</p>	<p>□これまで学習したことを資料などを使いながら書くよう声かけをする。</p> <p>■学習したことと関連づけて沖縄について考えたことをまとめている <ワークシート、思></p>

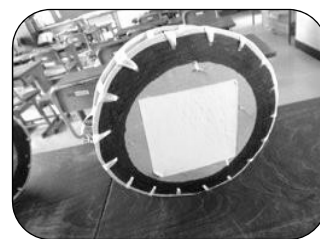
4. 実践の概要

(1) 運動会でのエイサー（5月）

5月に運動会がある。本校では3・4年生が合同で民舞に取り組むことが多く、エイサーに取り組むことにした。エイサーには楽しく踊れて、気持ちも盛り上げる何かがある。沖縄を題材にするにあたってエイサーを初めに取り組んだことで、子どもたちの沖縄に対する興味は格段に上がったと感じる。エイサーの踊りの練習をしながら、①締め太鼓を作る、②はやし言葉を知ることがを並行して行った。自分の楽器を自分で作ったことでより熱が入り、練習で太鼓が破れる子もいた。はやし言葉については「方言」であるということにとどめ、後の総合的な学習の時間でのテーマの一つになるよう種をまいておいた。その場で解決させるだけでなく、後につながってくるようにしておくことで、子どもたちの意欲は続いていく。締め太鼓に関しても沖縄の音楽や楽器への興味につながっていったことが感想からわかる。（以下子どもの名前はすべて仮名）

子どもたちの感想

・運動会でエイサーをおどりました。エイサーには、はやしことばというおもしろい言葉があります。わたしは言葉の意味などたくさん調べてみんなに発表してみながらもっと沖縄を好きになってほしいです。（みさ）



思い思いの模様を作ってオリジナルの締め太鼓にした。

・運動会でエイサーをやって、エイサーに興味をもったので、エイサーを調べました。楽器は締め太鼓や和太鼓などを使っています。いしょうははっぴのようなものを着ていて、頭にはサージをまいてするそうです。けれど、どんないしょうを着ていたってどんな楽器を使ってもエイサーは楽しくおどれると思いました。（まゆ）

・運動会でエイサーをおどっていて、沖縄の言葉にきょうみをもちました。どういう意味か調べたいです。沖縄に行って沖縄の人は本当に沖縄の言葉を使っているのかも知りたいです。（あすみ）

・わたしはエイサーのことをやっているいろいろな楽器があり、知っている楽器や知らない楽器がエイサーに入っていることがわかりました。はやし言葉では、わたしが知らない言葉ばかりあって、なんて言っているんだろうと疑問に思いました。エイサーは子どもから大人まで楽しめるのですごいと思いました。（のぞみ）

言葉に興味をもつ子が多くいた。「方言」は何となくわかる言葉もあれば、全くわからないものも多い。踊りも楽器も何となく知っているようだがちょっと違うところがある。このように少しはわかるが、多くのことはわからないということが学習の入り口として入りやすく、熱中させる沖縄の魅力の一つだと考えられる。

(2) 音楽発表会での合唱・合奏（6月）

6月に4年生が参加する音楽発表会がある。ここでは音楽担当の先生と相談し、「さとうきび畑」の合唱、「島唄」の合奏に取り組むことにした。発表会のかなり前から練習を始め、子どもの中には曲が頭から離れず、口ずさんでいる子が多く見られた。「さとうきび畑」の歌詞からは戦争があったことが想起され、子どもたちのなかにも興味を

もつ子が出てきた。また、エイサーと合わせて沖縄の音楽に対する関心が高まってきていることが感想からうかがえる。

子どもたちの感想

・ぼくは沖縄の音楽について調べてみたいです。なぜかという、ぼくは音楽の勉強が好きで、島唄しか知らないから沖縄の音楽について調べてみようと思いました。三線を入れて「島唄」を合奏してみたいです。（いっせい）

・エイサーやさとうきび畑、島唄の他にもたくさん歌を知りたいです。いろいろな曲を聞くと悲しいような心が温かくなりそうな曲でした。昔に戦争が沖縄であったのか、戦争のような曲がたくさんあったような気がします。沖縄は楽しいところだよと伝えているような曲もありました。（ゆりあ）

ある程度子どもたちの興味が定まってきたところで、夏休みに課題として自分の興味のあるものについて調べるようにした。実際に沖縄に旅行に行った子どもも2名いて、子どもだけでなく保護者にもお願いをしシーサーの写真などをたくさんとってきてもらった。面談や懇談会などで保護者から「子どもが三線を買ってほしいと言っている」「沖縄に連れていってくれと言われた」などの言葉も聞き、子どもたちが沖縄に向き合い始めたと感じた。

（3）シーサーの作成（9月）

図画工作で粘土を使った単元がある。ここで子どもたちにどのようなものを作りたいかと聞くと、「シーサー」との答えがあった。夏休みに旅行で沖縄に行った友だちがとってきてくれた写真や、私が家から持って行った実物などを見て、練習を重ね、思い思いのシーサーを作った。ここでは夏休みにシーサーについて調べてきた子などにシーサーの役割や始まりなど発表してもらった。



オーソドックスなものから三線を持っているものなどさまざまなシーサーができあがった。

（4）総合的な学習の時間（10～11月）

ここまでの行事や学習をまとめていき、総合的な学習の時間の発表会で発表することにした。3、4人ほどのグループで壁新聞＋発表内容に合う発表方法（踊り、演奏、大型テレビでの掲示など）を決めて取り組んだ。

発表の振り返り

・わたしは悲しい歌詞だけど音楽は楽しい音楽があるといったのですが、楽しい歌詞も沖縄だからこそある気がするのでこれからも沖縄の歌を調べていきたいと思えます。沖縄に行ってもっといろんなことを調べてみたいと思いました。沖縄とわたしが住んでいるところが少し変わっていてとても面白いです。（ゆりあ）

・沖縄そばやラフテーなどは作ったことはありますかと聞かれたときに、作ったことがないと答えました。ゴーヤチャンプルーは作ったことがあるけれど、沖縄そばなどは作ったことがないので、家で作ったみたいです。他のところの発表を見て、まだまだわたしは沖縄のことを知らないのだと思いました。（ことね）

・ぼくは、発表をしてもっと食べ物などのことを知りたいです。沖縄のフルーツや野菜を育てたり、料理を5年生の家庭科で作ってみたいです。沖縄は中国から伝わったのが多いからまだあるのかも調べたいです。韓国から伝わったものもあると思います。（けいすけ）

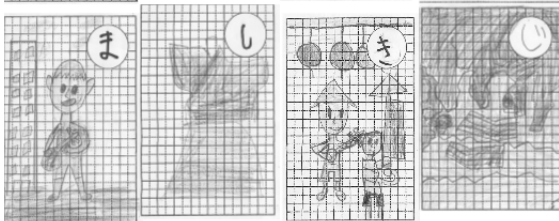
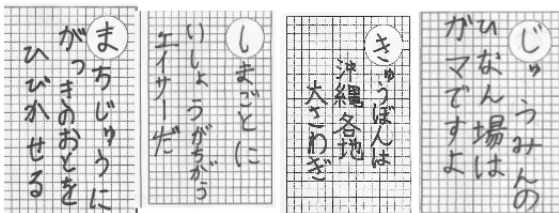
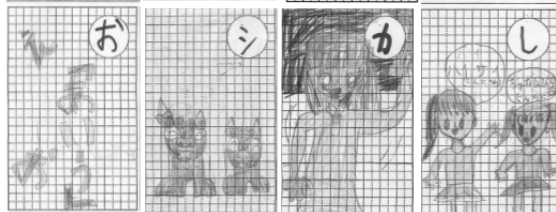
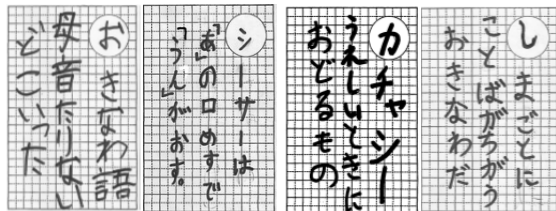
・ぼくは三線をやってどう思ったか聞かれて、難しいけれど楽しいと思いました。僕はまだうまく演奏できないから、沖縄の楽器についてまだまだやりたいです。楽器について調べたら沖縄の歌にも興味をもったので、いい歌に合わせて沖縄の楽器を鳴らして演奏してみたいです。歌を覚えるには方言を覚えた方がいいので方言も覚えたいです。（つばさ）

まだまだやりたいという気持ちが伝わってくる。また、他のグループの発表を見て、自分が沖縄のことをまだ分かっていないという感想もあるように、沖縄をさまざまな角度からみることに楽しみを覚えていることもわかる。ゆりあさんの「沖縄とわたしが住

んでいるところが少し変わっていてとても面白いです。」に子どもが感じ取る沖縄の魅力が表れていると感じた。子どもは「少し」変わっているから沖縄に興味をもつのではないだろうか。自分との接点がありつつ、そうではない一面が見えるから意欲的になっていくと考えられてきた。

(5) かるたづくり (12月)

総合的な学習の時間でのグループで発表したことをもとにかるたづくりをした。子どもたちの関心が端的に表れてきた。



- ① 沖縄語 母音たりない どこいった
- ② シーサーは 「あ」の口めすで 「うん」がおす
- ③ カチャーシー うれしいときに おどるもの
- ④ 島ごとに 言葉がちがう 沖縄だ

- ⑤町じゅうに 楽器の音を ひびかせる
- ⑥島ごとに 衣装がちがう エイサーだ
- ⑦旧盆は 沖縄各地 大さわぎ
- ⑧住民の 避難場は ガマですよ

体験したり、調べたりしたことを細かく表すことができた。短い言葉で表すのは難しいかと考えていたが、意欲的に取り組むことができた。方言では母音が欠落することや島ごとに言葉がちがってくることもあることを取り上げていた。沖縄と一言にいてもたくさんの島があることにも気付いている。シーサーに関しても口に注目して役割がちがうことまで考えられている。かるたを作ることには自分の興味を再確認できる良さがあり、それを端的に表すことでどのような理解をしているか読み取ることができると改めて感じた。

(6)『へいわってすてきだね』を読む(1月)

与那国島の1年生の安里有生さんが書いた詩『へいわってすてきだね』の絵本の読み聞かせをした。沖縄県平和祈念資料館がつのった「平和のメッセージ」によせた詩で、2013年6月23日の沖縄平和祈念公園での「沖縄戦没者追悼式」でも朗読されたものだ。沖縄を学習するうえで戦争を避けることはできないとずっと考えていたが、4年生という年齢を考え、どこまで扱うか悩み、なかなか踏み出せずにいた。発表会で調べたグループはいたし、「さとうきび畑」の歌詞からも戦争は想像できる。子どもたちの中にも聞いてくる子はいた。そこでこの絵本を読み聞かせをして、子どもたちに沖縄をどう思うか考えさせた。いつも話してばかりで文章が書けない子も、この時間は思うところがあったのだろう。真剣に取り組み、自分の言葉で頑張っている姿が見られた。

子どもたちの感想

- ・ぼくは、沖縄は戦争の無いところだと思っていました。でもさとうきび畑やへいわってすてきだねを思うと沖縄は戦争にあったことがわかりました。とくにさとうきび畑の3番の歌詞がとても悲しい歌詞です。もう一つ11番も最後この悲しみは消えないが悲しいです。沖縄は悲しいところです。昔は戦争がはげしかったことが平和ってすてきだねを読んでわかりました。一回沖縄に行ってみたいです。そして人に戦争のことを詳しく聞きたいです。(みずき)
- ・最初沖縄はとっても楽しいところだと思いました。でもこの本を聞いて楽しいことばかりじゃないことがわかりました。この本で戦争について書いてありました。僕はなぜ沖縄戦が沖縄で始まったのか疑問に思っています。ぜひ知りたいです。(こうへい)
- ・沖縄の人はすごく楽しそうだけど、昔は悲しいことがあったことがわかって平和がすごくいいことということがわかりました。沖縄はつらいことをのりこえて今は楽しくしているのかなあと思いました。でも、今でも悲しみを慰める歌があるので、沖縄の悲しみは今も続いているのかなと思いました。(つばさ)

- ・ぼくは安里さんが自分で思っている平和を書いているのがわかりました。へいわがどんなことか自分なりに考えていたと思いました。戦争が怖いこととか自分が平和なときに生まれてきたという感じが伝わってきました。自分が戦争のときにいなくてもいた人の気持ち、悲しみを書いていました。自分にできることを平和につなげて、この平和が続くといいと安里さんも思っているし、ぼくも思っているから、ぼくも平和につながることをしていきたいです。（けいすけ）
- ・ぼくはこの本を読んで戦争はこわいと思いました。戦争では多くのぼくだんが落とされるということがわかる絵がありました。さとうきび畑という歌の「あの日鉄の雨にうたれ父は死んでいった」のところで戦争のとき父が鉄の雨＝ぼくだんにうたれたことだと思い、戦争のことに関係する歌なのだと思います。この本を読んだり、沖縄の歌を歌うと、沖縄にはこわいことがあります、それをなくすために戦争の歌や悲しい歌があるのかなと思いました。今の沖縄は戦争を起こさないようにする歌が作られたので今は平和だと思います。（たけし）
- ・わたしはへいわってすてきだねを読んで、初めは幸せなところだと思っていました。でも本当は戦争が起こっていてとても悲しいところだと知りました。絵本にもかいてあった通り、たくさんの方が死んでしまったのでとてもかわいそうです。安里さんがこのすべてを詩に表し、前はこのようなことがあったんだよと知ってほしくてかいたと思いました。でもわたしは一度でもいいので沖縄に行ってみたいです。なぜなら今はどのようなになっているのか、今は幸せなところかどうかを知りたいからです。（あすみ）

これまで体験してきたことと関連させながら自分の考えを書けるようになっていく。絵本から沖縄を考えたことで平和についても考え、疑問も生まれてきている。今は平和と考えている子もいるし、本当に平和か疑問をもつ子もいることがわかる。現在も基地問題などたくさんの方がいる沖縄だが4年生の段階ではこれで止めようと考えた。次につながる学習になっているからだ。現在の沖縄が本当に平和かどうか考えるには、5年生の社会科では国土の学習で沖縄を扱うし、6年生の歴史学習でも沖縄を扱うことで取り組むことができる。中学校でも沖縄に関連した事項が出てきた際にはこの学習を思い出してくれると思う。学び残しもあっていいと、この4年生で取り組んだ学習を通して私自身は強く感じた。

（7）国立歴史民俗博物館を見学する（2月）

国立歴史民俗博物館にいくつか沖縄に関連した展示がある。保護者と共に希望者を募り、見学に出かけた。（兄弟なども含め子どもは15名参加）見学をすることで体験を通していく中で培ってきた考えと、歴博での展示物を見て感じることをつなげていくことにつながり、沖縄に対する考えが深まったり、広がったりすると思った。見学後にこれまで学習してきたことと、展示物をつなげながら沖縄に対する考えを書いた。

- ・沖縄で古くから残ったものなどが置いてあって、昔は戦争が起こっていて大変だったんだなと思いました。平和だと思っていたけれど、昔は全然平和ではないとわかりました。沖縄には戦争のあとが残っていて、びっくりしました。（ことね）

- ・沖縄は平和なところだけれど、まだ戦争をしたときのきずが残っていたり、ガマがあったりしていることがわかりました。おみやげはやはりシーサー関係のものやちんすこうなどのものがありました。アニメやまんがのキャラクターのストラップがありました。（まゆ）
- ・ぼくはキャラクターとコラボしたストラップなどのいろいろなおみやげがあると思いました。それはキャラクターとコラボすることでよく売れると思うからです。また沖縄の祭りは中国の祭りの写真と似ているなと思いました。（たけし）



じっくり見学し、これまでの学習と展示物とを結び付けて沖縄についてさらに考えられた。

戦争の傷跡が残ると同時に「おみやげ」に代表される観光としての沖縄を感じ取ることができた。沖縄と戦争、沖縄と観光を子どもたちがどのように捉えるかを考えるにはとても良い展示だと感じた。「おみやげ」は各地の人々が自分たちをどう捉えているか（例えば沖縄であれば本州の人々が沖縄をどのようにイメージするのか）という文化の再生産であるという展示の説明を受けたことがある。沖縄のお土産のイメージを受けて子どもたちがまた沖縄について考えることができている。沖縄と中国との関連についても、切り離せないものだということが感じ取れた。学習のどの段階で博物館の見学に来るかという点で、今回の実践はまとめの段階にしたことで、子どもたちの思考が整理されたと感じる。

（8）まとめ（2月終わり）

6年生を送る会という行事ではCMでおなじみの「海の声」の演奏と歌に取り組んだ。沖縄の学習のまとめという位置づけで発表を終えた後に感想を書いた。子どもたちの中には確かに沖縄が存在していて、様々なまなざしが感じられる感想になっている。

- ・わたしは沖縄に住んでみたいです。沖縄は悲しいところだと思っていました。1年間ずっと沖縄の勉強をして、楽しかったり悲しかったりするけど、沖縄はいいところだと思いました。（ななか）
- ・海の声を歌ってみて、沖縄はやっぱり楽しくて、海がきれいなところだと思いました。楽器の鳴らし方が面白いし、パーランクーや四つ竹、三線がみんなを笑顔に変えていると思いました。（いっせい）
- ・わたしは海の声を歌ってみて、沖縄に一度行ってみたいと思いました。青いきれいな海を思いうかべて、いいなと思いました。でも、昔は戦争などがあって、大変だった

んだと思うと悲しくなります。だけど今は平和だし、沖縄がもっと好きになりました。
(せびあ)

- ・わたしは、海の声の歌と合奏をして沖縄のことを最初は楽しいだけのところだと思っていました。でも沖縄についてたくさん調べたら、昔は戦争などつらいこともあったと知りました。でも私は沖縄のことが好きです。それに沖縄のことをたくさん勉強したので私にとって沖縄はかけがえのないところだと思っています。(ちか)

多くの感想に沖縄のことが好きになったということがある。楽しいだけのところではないこともわかったうえで沖縄と向き合う子どもの姿には驚かされる。普段嫌なことからは逃げがちな子どもたちが一生懸命向き合っている。やはり沖縄という題材のもつ力といえる。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・学習のまとめの時期の見学であったので、博物館見学を通してこれまで学習してきたことを再確認するとともに、沖縄が抱えている問題についてさらに考えるきっかけとなった。学習の導入としての見学であれば、展示物の豊富さを生かして見学の仕方を変え、また違った取り組みができると感じた。
- ・さまざまな教科・領域で沖縄を扱ったことで、子どもたちは沖縄を多面的に見ることができた。総合的な学習の時間を中心に音楽、図画工作と広げたことで子どもたちの視野を広げることができた。博物館見学を含め、さまざまな活動によって沖縄に行きたい、話を聞きたい、見たいということを家でも話すようになり、テレビも沖縄のものになると食い入るように見ていると保護者から聞くことが多い。学校での学習だけでなく沖縄に愛着をもっている。学び残しもありながら1年間沖縄と向き合った子どもたちの姿がこの実践の成果と言える。

(2) 課題

- ・4年生ということもあり、展示物の解説の理解が難しく、見学が中途半端になってしまった。ワークシートを工夫して、かみ砕いた表現で説明する必要があった。口頭での説明だけになってしまったので、教師自身の展示物への理解もより必要だと感じる。
- ・発表の場面が少なかったことが課題と言える。総合的な学習の時間の発表会ではすべての学年の子や保護者が見学したが、普段の学習では1クラスということもあり、自分たちだけの発表、見学になってしまった。もっと発信するということができればよかった。特に沖縄の人に向けて取り組めればもっと子どもたちの考えが広がり、深まったと考える。